

2011 
Spring
No.

33

かたらしい

特集 イケメン



イクメン座談会

小金井市職員で育児休暇を取った男性職員（育児休暇取得の先駆者的存在である森田さん、お二人のお子さんの育児休暇経験者である竹内さん、4カ月半の育児休暇を過ごされた宮嶋さん）に、新年早々にお集まりいただきお話を伺いました。

Q・育児休暇取得当時の状況についてお聞かせください。

（森田）私が育児休暇を取ったのは制度施行の2年目だったと思います。子どもはもう、今年18歳です。2人目が生まれたら育児休暇を取ってほしいという妻の希望があり、約2カ月半とりました。そのとき上の子は3歳でした。当時、育児休暇を取るのめずらしかったこともあって、テレビの取材依頼もありました。でも、当時は育児休暇の取り上げ方にも賛否両論あった時期だったのでお断りしましたが…。

休暇期間中はまだ無給の時代でした。（竹内）私は子どもが3人いるのですが、2人目と3人目のときに2回取りました。期間はどちらも1カ月間です。妻の身体をいたわりたと思いますし、妻の健康がやはり一番大切なので、育児休暇を取ろうと思いましたが、私のときは、休暇期間中の給与は無給で共済組合から手当てが50%支給されました。

（宮嶋）私は当時、健康課に勤務していたのですが、職場の周囲の方々が支援してくださる雰囲気があったので、育児休暇を取ってみようと思いました。期間は約4カ月半です。子どもは2月に生まれたのですが、生後10カ

月ほどで妻が復職して、それから私がバトンタッチしました。子どもは2人いますが、上の子の時だけ育児休暇を取りました。2人目で取らなかったのは、異動したばかりで取りづらい気持ちと、妻からの希望も特に強く感じなかったもので、何となく取りませんでした。給与は私のときは40%支給でした。

Q・職場での反応は如何でしたか？

（森田）反対はありませんでした。正直ダメですという方もおられないかもしれませんが、「おつ、いいよ」という感じでした。

（竹内）私も反対はありませんでした。妻の出産予定日がわかっていましたので、半年前から、一カ月間の育児休暇を職場にお願いして、承諾を得ていました。

（宮嶋）反対はありませんでした。女性が多い職場だったので、むしろ背中を押していただいた感じでした。

Q・育児休暇を取得されて、奥さまやご両親の反応は如何でしたか？

（森田）妻からは特になにもありませんでした。親からは…うーん、記憶にないです。

（竹内）妻から感謝されました。長文



竹内さん

のメールに書いてくれたのですが…。
● 日中に話し相手がいてストレス軽減になった。

● 母親だけで家事や育児を全てこなすのは容易ではないので、そういう意味では良かった。

● 2人の育児観を変えるきっかけになった。

● 職場の方々のご理解に感謝している。母親からは、「よくとれたねー」と感心されました。それから、「職場の人に感謝してしっかり働きなさいよ」と言われました。

（宮嶋）私は、2人目の時は育児休暇を取得しなかったのですが、「やっぱり取ってもらえばよかった」と妻は言っていました。両親は、「よかったね」と肯定的でしたが、本当は、「仕事は大丈夫なのだろうか」と心配しているのではないかと思うところもありました。自分から積極的には育児休暇のことは話しませんでした。

森田和弘さん

前原小学校勤務で、お子さんが3人です。育児休暇取得は1回で、第二子誕生時の、平成4（一九九二）年8月1日から10月14日まで、約2カ月間半。

竹内明さん

水道課勤務で、お子さんが3人です。育児休暇取得は2回で、第二子誕生時です。平成20（二〇〇八）年2月9日から、平成22（二〇一〇）年5月14日からの各1カ月間。

宮嶋順也さん

市民課勤務で育児休暇取得時は健康課勤務です。お子さんが2人です。育児休暇取得は1回で、第二子誕生時の、平成18（二〇〇六）年12月1日から約4カ月間半。



宮嶋さん

Q・育児休暇中の生活は如何でしたか？

(森田) 専業主婦の生活がどのようなものかわかりました。家事一切をやる生活で、慣れるまではストレスがたまりました。離乳食ひとつ作るのもたいへんですね。それで、妻は仕事から帰ってきて、今日はたいへんだったとか話をバーっとする訳です。でも、ぼくも家ですごくたいへんだった訳で、カチーンときて当時はよくケンカしてました。

それから、上の3歳だった男の子が、赤ちゃんにやきもちを焼いて困ったということもありました。保育園に行きたくないとか言ったりして。ぼくは、おんぶひもでのおんぶはかっこ悪くていやだったので、抱っこしていたのですが、それが上の子のやきもちを助長すると聞きまして、とうとう仕方なく、下の子をおんぶしていました。

(竹内) よい経験ができました。炊事、掃除、洗濯や保育園の送り迎えなん

かも、ママ友に混じって全てやっていました。朝昼晩のごはんづくりや洗濯は本当にたいへんだと思いましたが。それまでは仕事などで効率的にやろうという考え方だったのですが、子どものペースに合わせてゆっくりやるということもできるようになりました。

(宮嶋) 最初は不安でした。妻が仕事に出かけてしまつて12時間帰って来ない、子どもと二人きり、自分ひとりでも、子どもの面倒をみると思うと…でも、一通りできるようになってきて自信もついてきました。離乳食作りも、ブロッコリーなどを茹でておいて冷凍して使ったり、いろいろやりました。

子どもが生後10カ月から1歳過ぎるあたりの間だったので、ごはん作りは特にたいへんでした。食べてくれないときもあって。自分も余裕がない時だと、スプーンで子どもの口にくぐぐい押しこんでしまつたりして…。後で自分で食べてみると、やはりおいしくないなあと反省したりもしました。

Q・育児休暇を取得したメリット・デメリットについて教えてください。

(森田) メリットは、子どもと二人き

りの時間がとれたことです。それから、主婦の経験ができたことですね。デメリットはありません。かけがえのない時間というか、私にとっては宝物のような経験です。

(竹内) 子どもと密な時間を過ごせてよかったです。夜、寝ていると二人の子供がぼくの左右の腕に抱きついてくるんですよ。今までそんなことなかったからうれしかったです。デメリットはあまり感じません。自分もこのような時間を持って、リフレッシュできました。気持ちにゆとりを作ることで、たまにはゆとり、ペースを落としてやっていくのもいいということを学べました。

(宮嶋) メリットは、自分自身仕事から離れてリフレッシュできたことでしょうか。それから、妻がいなくても、自分ひとりでも子どもを見られるし、大丈夫だという自信ができました。デメリットとしては、やはりどうしても職場に迷惑がかかってしまう



森田さん

ということでしょうか。職場の皆さんは、暖かく支持してくださっていただきましたし、臨時職員が入っていたのですが、それでも私の仕事の分が、他の職員の方に負担を強いてしまう面もあると思いました。

(森田) そうですね。ぼくの場合も職場では、臨時職員の方が途中でやめてしまつたりしてたいへんだつたようでした。育児休暇を取るには、代替の問題がありますね。他の自治体では、通して休むのではなく、週の前半・後半に分けて休暇を取るという方法を採っているところもあるようです。

それから、以前は休暇期間中に昇任試験などがあると受けられないなどのデメリットもあったので、休暇をとるとメリットがあるというような体制を作らないと、なかなか取得しづらいかもしれません。

編集部 育児休暇制度が最も進んでいるスウェーデンでも、男性の育児休暇の取得はなかなか進まなかったというようにして、79・2%取るようになったそうです。日本でも何かもう少し育児休暇を取りやすくする工夫が必要なのではないでしょうか。

皆さま、たいへんいいお話をありがとうございました。

パ パ の

物語

東京学芸大学教授

田村毅

「パパの子育て」とか「イクメン」は、私の体験に照らし合わせればあえて取沙汰せずとも自然なことです。それは、私の身近に「パパの物語」があったからだと思います。

まず、私の父親の物語。パパは群馬の山奥（今でこそ有名になった四万温泉）から、ママは愛媛県海辺の町から東京に出て、お見合い結婚から核家族をスタートさせました。親類縁者たちから離れ、私と妹ふたりの子育てに孤軍奮闘したのだと思います。高度経済成長期の標準からすれば公務員だったパパの帰りは比較的早く、土日もふつうに家において、子どもたちによく関わってくれました。「もっとがんばれ！」と過剰に

期待されることもなく、学区の都立高校に進学しました。アメリカ留学を希望した時も、「大学に行けなくなるぞ！」という高校担任の忠告をさえぎり、私を認めてくれました。

とおしゃべりしていました。日本人の私にとって特筆すべきことですが、彼らには普通のことです。これらの物語は、精神科医として出会った父親の物語と大きく異なっていました。思春期の不登校やひきこもりなどの家族の多くには、物理的にも心理的にもパパがいません。仕事で不在がちだし、親子や夫婦の会話すらありません。その分、ママがびったり子どもにくっついていきます。幼い頃はそれでも構いませんが、思春期になると親離れ・子離れが難しくなります。思春期はウチ（ママ）の世界から、パパ（ソト）の世界に飛び出します。緊密なママと子どもの絆にパパがクサビを打ち込み、夫婦関係を取り戻せば、子どもは自然にママから離れてゆきます。子どもだけを治療しても一向に良くならないので、家族全体を元気にできる家族療法を勉強しました。

旅館業を営んでいた私の祖父はいつも家において子煩悩だったそうです。私のパパが幼い頃、寝ている体がふんわり浮き、父親が自分の寝床に持って行き一緒に寝ていたそうです。多くの物語の中でこの話が家族神話として記憶に留まっているのは、父から息子へと代々受け継がれる伝統に含まれるからでしょう。それを私は無意識に子どもたちに伝えるのだと思います。

さて、次は私自身がパパになった物語です。30歳で結婚した私は妻に家においてほしくないと思いました。男が経済力と自由を占領した方がホントは気持ちよく、好きなことをできるのだから、結局は家族を顧みず、仕事に埋没する男になっても

面白くありません。妻が夕飯の支度をして私の帰宅を待つよりは、妻が自分を成就している方が、自分も同じようにできます。

今までの人生で一番嬉しかった瞬間を3つ挙げるとしたら、①高校留学試験に受かった時、②妻が私のプロポーズを受け入れてくれた時、そして③妻の出産に立ち会った時、長男に出会った時でしょう。親になった喜びをふたりで分かち合い、妻も私も働き続け、保育園と両親の力を借りながら子育てしました。私もパパとしてがんばっていたつもりでしたが、妻から「あなたは口ではきれいごとばかりで、結局は私にやらせるのね」と言われていました。確かに、週末も仕事やゴルフに行っていました。そんな妻も2年前、家族でスキーをしているさ中に心臓発作で急死。



享年45歳でした。私は生涯経験したことのない深い悲しみと心の危機に直面しつつ、シングル・ファーザーとして格闘してきました。

悲しみは隠さず、子どもたちと共有するよう心掛けています。外食でさえ焼肉かスパゲッティか意見が合わない3人の子どもたちも、ママのお墓参りに行く時は必ず意見が一致します。4人そろって車で小一時間、三浦半島の公園墓地のママに会いに行きます。

子どもたちにとって、スキーは母親を奪った敵です。「もう絶対スキーなんか行かない」と宣言していた次男も、2年目となる今年の正月に友だち家族と一緒にスキーに行くことができました。

子どもたちと悲しみを共有しつつ、ふだんは父親の元気な姿を見せてあげたい。スポーツ好きな私は体を動かすことで心も元気になります。自転車で大田区から32kmの道を通勤し、テニスやスキーを楽しむ父親を見て、高2の長男はバレーボール、中2の娘は水泳、小6の次男は体操にがんばっています。

普段の炊事・洗濯は二世帯同居の母親が支えてくれますが、子どものお弁当は私が作ります。保育園時代

の弁当はほとんど妻が作っていました。小中学時代は給食ですが、高校はまたお弁当です。保育園時代のママ友たちが「交代して作ってあげるわよ」と申し出てくれましたが、幸い家事の中で料理は好きな方です。当初頼りにしていた「男子弁当」の料理本を見なくても冷蔵庫の残り物で作れるようになりました。食事作りは子どもたちを養っている実感を感じ、ダイレクトに得ることができません。ついでに自分の弁当も作り、外食が減りました。

中2の娘は気が強く、反抗期の真っ只中です。挑戦してくる無理難題に甘やかしたくはありません。厳しく限界を設定する一方で、娘にとって甘いおねだりするのはパパしかいません。昨年、オーストラリアに住む友人家族が訪ねてきました。好奇心の強い娘は「遊びにおいでよ!」という誘いに乗りたいたい一方、まだひとり旅は不安です。「大丈夫だよ、行ってごらんよ。」私の父親と同じように娘を励まし、結果的にはとても楽しんできました。私が成田空港まで迎えに行くと、いつもの父親に見えるブスとした顔。「あーあ、日本に帰ってきちゃった!」という気持ち私は私もよくわかります。でも

言わなくちゃと、とってつけた口調で一言「パパありがとう」。パパはそれだけで十分報われます。

多忙のため限られた時間の中で、子どもたちと気持ちがあつながら瞬間の温かさを感じます。それはおそらく自分自身の父親との関係の中で育まれた感性です。妻を失った今のほうが、私にとっても子どもたちにとっても一層かけがえのない親子の絆となりました。父親の物語は過去から現在、そして未来につながってゆきます。

すべての人は心の中に光と影を持っていきます。そしてすべての親は子どもを愛そうとします。親から愛された記憶が光の中にあると、子育てほど楽しく幸せなことはありません。反対に、それが影の記憶に埋め込まれていると、子どもと関わるのがとても苦しくなります。それは私自身、そして私が出会うすべての家族に当てはまります。幸い、光と影は陰陽太極図のように循環します。私は、家族の支援者として、光の中で親子が関われるようなお手伝いをしたいと願っています。



「家族で往復書簡のすすめ」
新しい父親像を発見するために

田村毅・田村鐘次郎 共著
彩流社 二〇〇七年

「家族力」を上げるための提言
悩める家族に「家族療法」を実践する精神科医が、自らが実例となつて、父親との往復書簡を始めた。食い違う記憶、見解の相違を検証しながら、新しい時代の父親・家族のあり方を探る。

父親であることを 楽しもう!

NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事

安藤哲也

！ 惜しいパパから、カッコいい
パパへ変身しよう。

子どもが生まれたら育児を楽しみたい。そう考える若い父親・イクメンたちはいま確実に増えています。最近、海外のベビーカーが日本でもよく売られています、これは父親が品定めをし購入することが多いのです。お気に入りのブランドバッグと子どもとお出かけ。ファッションとしての楽しさを追求しながら子育て

すること自体は悪いことではありません。でもそれだけで満足している人がいたとしたら、それはちょっと「惜しいパパ」の感じがするのです。

かく言う私も最初はそうでした。外見を気にし、女の子の父親として「カッコいいパパでありたい」と願っていました。でもあるとき気づいたのです。周りに「カッコいいといわれたい」という一心で見た目ばかりを重視し、その内実つまり精神性が全くついてきていないことの「カッコ悪さ」にです。ではファッションだけの「惜しいパパ」を抜け出して「カッコいいパパ」「笑っている父親」になるには、どうしたらいいのでしょうか？

！ 男の育児は「質より量」。
イトコドリ育児はやめよう。

「育児したいけど仕事が忙しくて、帰っても子どもの寝顔しか見られない」。その不満から「週末オンリー育児」に精を出す父親は多いと思います。でも日々の泥臭い育児、例えば、ごはんを食べさせる、手が汚れるオムツ交換、保育園の送り迎えなどをせずに週末のお出かけや遊びなど、子どもにウケることしかやらないでいると「結局パパって、いいところ取りよね」と、妻に冷めた目で言われ

てしまうことはないでしょうか？ だがFJでは悩む父親たちに「これからの男の育児は、質より量を目指そう」と言っています。

私は、上の子二人でオムツを4400枚換えました。もちろん最初はウンチが苦手。でも、それが単なる汚物ではなく子どもの健康バロメーター、子育ての「成果物」なのだと感じられたとき、オムツ換えがまったく苦でなくなりました。つまり地味で泥臭いところを「義務」と捉えずに、「楽しみ」に替えられる人だけが「笑っている父親」になれると思います。面倒なことに対して、それをいつもやっている人の大変さを想像して、「自分がやって当然」と認識し、見返りを求めず進んでやるのが大切で、オムツ換えや夜泣き対応とかを鼻根混じりの涼しい顔でこなせるようになってこそ「真のパパ力」が身についたということではないでしょうか。

しかし、古い性別役割分業の意識が強い男性は、「自分がやりたいとき」にしか育児や家事をしません。その罪滅ぼしとして休日に遊園地や映画に連れていったり、レストランで食事、あるいは夏休みに豪華な海外旅行を計画したり。確かに子どもは喜ぶけど、そうした目立つイベントだ



けを企画・実行して子育てした気になってるパパは、やっぱり惜しい。そうではなくて忙しい日常に意識的に工夫を凝らし、時間を捻出して泥臭い育児・家事に向き合ってみる。質だけを求めずに、量をこなしてこそ見えてくる世界を楽しんでほしいと思います。

！ 忙しい父親に必要な「パパ力」
は「ママを支える」こと。

仕事で忙しい父親たちは、帰宅時間が遅いために、風呂に入れたり一緒に遊んだりができない。だから、忙しいサラリーマンの自分に子育ては無理と思いがちです。でも子ども

と直接向き合うだけが父親の育児ではありません。FJは父親向けセミナーで「忙しい父親たちに必要なパバ力の一つは、ママを支えることだ」と強調しています。

帰宅が深夜になって子どもが寝ていても、ママが起きていたら話を聞いてあげて欲しいものです。現代では母親の多くは育児を一人だけでやっています。その喜びや大変さを本当は夫と分かち合いたいと思っ

さい。ママに共感し、感謝し、精神的に支えることでママはその晚ぐつすり眠れて、翌日笑顔で子どもと向き合えます。そのママの幸福感を感じて、子どもは健やかに成長するのだと思います。育児の作業に直接関わらなくてもママを支えることで子どもの健全な成長を促せます。この「間接育児」の大切さに気づき実践することが、まさに現代の父親の「パバ力」なのです。

！ パパ友をつくらう！
父親ネットワークで育児はもつと楽しくなる

ママを支えて家庭が安定したら、今度は父親は地域に出て「パパ友を作ろう」とFJでは勧めています。働く母親同士で大変な日常を助け合う「ママ友」の存在は聞いたことがあるでしょうが、父親だって育児をしていれば母親同様の課題が出てきます。そこで悩みを相談したり、助け合う友だちが父親にも必要になってくるのです。いざというときは遠くの親戚より近くの他人。大変なときは育児でちよつと先輩のパパ友に相談すれば手助けや良いアドバイスがくれるでしょう。

また、「パパ友」の存在は子どもにも

も大きなメリットがあります。昔は近所に他人の子を叱る親が結構いたものですが、自分の父親とは違う「父性」に触れることで子どもは大人の多様性を知ることができま

す。また父親同士で趣味が違ったりすると「遊びの幅」も広がります。

私にはいま地域に40人のパパ友がいます。保育園、学童クラブ、小学校などで知り合った父親たちです。いつも近所の焼鳥屋で一杯飲みながら、地域情報の交換や「今度の休みは、何やる？」なんて相談ばかりしています。でもそれが楽しいのです。同じエリアで子育ての苦楽を共にした「パパ友」とは、きつと一生付き合える友だちになれる予感がするのです。

！ 笑っている父親でいよう！
父親の笑顔が子どもを育てる。

私が父親支援のNPOをつくったキッカケは、ある子ども

の暗い表情でした。6年前から父親による絵本の読み聞かせ活動(パパ's絵本プロジェクト)を行っていますが、毎回20〜30人来る子どもの中にまったく笑わない子がいることに気づいたのです。パパたちが読む絵本はナンセンスで笑えるものが多いのに、どんな爆笑絵本にもその子はピクリとも

反応しません。表情が凍っているようでした。でも、よく観察するとその笑わない子の後ろには、必ず笑わない母親と父親がセットでいたので

「ああ、たぶんこの子は家で「笑い」を学んでないんだろうな」と思いました。

長時間労働とストレスで心身ともに疲れ果てて深夜に帰宅する父親。そんな不在の夫をあてにせず、育児をひとりで背負い込み爆発寸前の母親。そんな家庭に笑いな

んかありません。しかもつ面の親の顔ばかりみていたら、子どもは自分自身や社会に対して肯定感を持ちえないのです。

だから「笑っている父親を増やしたい！」。私はそう考え、NPOを立ち上げ、次世代育成のために父親の意識改革作戦を開始したので

す。「父親は背中を見せていけばいい」。昔かたぎの父親はよくそう言います。昭和一ケタ生まれの私の父もそうでした。当時はそれで育児をやったつもりでいたのかもしれない。しかし、今の揺らぐ子育て環境をみると、今の古い考え方には無理が多く、おそらくハッピーな親子関係は築けないでしょう。

だからあなたも父親であることを楽しんでみませんか。

小金井で働く

小金井市本町郵便局

高橋日出子局長さん

に聞く

1 はじめに

高橋さんは、平成21(二〇〇九)年4月1日から局長を務めていらっしやいます。前の年の平成20(二〇〇八)年に試験を受けられたそうです。小柄ですが、とても優しい、でもきりつとしまったお顔で、対応していただきました。

小金井市には全部で十局の郵便局があります。中でも女性が局長をしている郵便局は三か所あります。今回は、小金井本町郵便局局長の、高橋日出子さんにお話を伺いました。

2 本町郵便局のこと

本町郵便局には長いこと勤められたので、局長になったときは、喜ばれたそうです。女性局長で困った事はないそうです。おなじみのお客さまにも喜んでいただけただけということ、高橋さんもホツとしていたようでした。

小金井本町郵便局の定員は局長を含め3人となっています。職員は男性が2人、あとパートタイマーの方が女性で2人います。ですから全部で5人ということになり、普通の郵便局と変わりはないようです。

部下の男性の方も、以前から一緒に仕事をしている高橋さんを新たに局長として迎えることができ、大変喜んでいらっしやいます。それは、彼らが一緒に仕事をしてきた仲間だからであつたこともあるでしょう。

本町郵便局では、1人は8時間勤務で4日間、1人は4時間勤務で4日間ということでした。もちろん土日日は休みということですが。

郵便局が分社民営化になってから、郵便業務と貯金業務、保険業務が異なった会社になってしまったところ、ですが、業務分担を聞いたところ、一緒にやっているとのことでした。

ここでは郵便業務、貯金業務、保険業務も「委託」という形をとり、5人で行っているそうです。つまり、窓口局では「前と同じ」ということで、あまり変化はないようです。

年2回くらい、職員やパートの人たちと一緒に、食事会を開催しているとのこと、楽しそうな会の風景が目につかびました。

4 局長さんのお仕事

局長になったとき、それまでの仕事と違ったことは何かと聞いたところ、職員と局長の仕事はやはり違うという答えが返ってきました。なじむのは大変だったそうです。また、郵便局には営業目標もあり、業務としては大変だということですが。

ノルマもあり、例えば年賀はがきの枚数や、記念切手の枚数などがあ

3 仕事のこと

職員の採用は、正社員については郵便局(株)の人事部がしているようですが、パートタイマーについては自局で対応することでした。インターネットでの応募もあるそうです。

近隣の郵便局との関係では、まず、小金井市を含めて、多摩地区内での女性局長会があるそうです。女性局長さん特有の問題などを語ったり、楽しいとおっしゃっておられました。

また、小金井市内の郵便局では、毎月1回定例会を開催していて、各郵便局長さんたちが集まり、さまざまなお話を話し合っているそうです。



るそうです。近頃では、各郵便局が独自に切手の特色を考えて取り寄せており、お客様に喜んでもらっているそうです。それにしても、どの切手を選ぶのか大変だと思いましたが。

局長さんは経営管理、マーケティング、人事管理、その他のことまで、すべての責任を負うので大変だとは思いますが、高橋さんはそれでも、淡々と話してくださいました。

5 ご家族について

高橋さんはお子さんが3人いらっしゃるそうです。しかも3人とも育児休暇は使っていないとのことでした。子育てはお義母様に協力してもらったとのこと。もちろん保育園にも預けたそうですが、学童保育もしっかりと利用なさったそうです。それに、郵便局はとても家庭的で、子供を育てるのもやりやすかったそうです。

なぜ仕事を続けたのかという問いに対しては、ご主人が仕事をしてほしいと言ったと答えていました(ただし、いつ辞めてもよいとは言っていたとかいはないとか)。お姑さんも、役割分担を考えてうまくやっ

ていらっしやったのではないでしょう。か。

上の2人については、育児休暇がなかった頃のことでもあり、大変だったと思います。しかしそんなことは全く表に出さず、3人の子育てを十分楽しんだご様子でした。

6 その他のこと

本町郵便局では、近くにある団地の住民の方々の高齢化に伴い、高齢者の方が多く来局されるそうですが、この頃では、若い方のご利用も増えたそうです。

局長さんは、古い郵便局なのでお客さまに不便をかけないよう気をつけているそうです。

また、局舎の前に立っている、古くからの赤い丸型ポストも、少しでも変わらないイメージを持たせられればとのこと。その土台は昭和40年当時のそのままだそうです。

あとがき

窓口郵便局である本町郵便局は、とても心地よいところでした。写真を撮っている時も利用者の方が来て、「とても良いところよ」などとおっしゃ

るのを聞いてみると、本当に地域に根差した郵便局だと思えます。

周りは、中学校や官舎、戸建て住宅などが立ち並ぶ住宅街で、桜の木もあつたり、また小金井生活実習所の

パンの店などもあり、とてもゆったりと時間の過ぎていく地域です。

高橋局長さんのお話の一つ一つが、明るい春の日差しのように心に響きました。



お父さんの育児休暇

国際比較

一 日本の現状

「ここ1、2年で、「イクメン」という言葉がはやってきています。「育児休暇を取る」、あるいは「時短を取る」というような父親が増えてきています。企業や組織の中に、育児休暇が設立され、女性は多くが取るようになりましたが(85・6%)、男性は少なく1・72%です(二〇〇九年)。

しかしそれでも男性の取得率は過去最高となっています。(表1参照)

表一 育児休業取得 厚生労働省

| 年度 | 男性 | 女性 |
|--------|-------|-------|
| 2005年度 | 0.50% | 72.3% |
| 2007年度 | 1.56% | 89.7% |
| 2009年度 | 1.72% | 85.6% |

二〇一〇年六月三日からは、改正育児・介護休業法が施行され、給与の50%が保障されるなど男性も育児休業を取りやすくなっています。しかしなかなか取得率が上昇しません。

日本の育児休業法は、

世界的にみても高い水準を保っているとされます。しかし、「法整備ができたならばよし」としてしまいう日本の弱点が、ここでも出ていると言えます。それは法律ができて、それを運用するのは企業や組織だからです。企業と国民が十分使うようにならないと、本当の法律の効果は出てこないと言ってしまうでしょう。

ここでは、法律の運用を考えて、効果がなければ次々と法律を改正する国、スウェーデンとの比較を考えてみましょう。

(注)日本以外の国は、育児休暇制度と呼んでいます。日本では「休暇」とすると、給与やそのほかの面でむずかしくなってしまうので、「育児休業」としたそうです。

二 スウェーデンの育児休暇

スウェーデンでは、一九七四年に育児休暇制度が導入されましたが、一九八〇年で既に、育児休暇を利用した女性は95%でした。しばらくは女性だけが取得していましたが、一九九五年に初めて育児休暇(450日)のうち、30日が父親だけが取れる休暇として制定されました。しかもそれは、父親が取らなければ、消滅してしまうものでした。

二〇〇二年には第二次改革として、夫婦での育児休暇が480日に拡大され、父親休暇と母親休暇として2ヵ月ずつ(60日)に増やされたのです。

しかも、それぞれ取得しなければ権利放棄となってしまう。ですから双方とも権利としては240日間持つていますが、そのうち他方の配偶者に譲れない期間が60日あるということ。しかもそれらは子供が8歳になるまでに取ることができます。

スウェーデンでも、なかなか男性の育児休暇取得率があがらず、女性たちが業を煮やし、ついに父親だけ(母親だけ)が取れる休暇を設定するようにになりました。その結果、育児休暇取得率は二〇一〇年では、女性は84・0%、男性は79・2%となっています。ドイツでもこの方式を始めたところ、すぐに男性の取得率が3%から20%程度まで上昇したと言います。

給与保障も、390日間は80%、90日間は最低1日60クロナ(現レートでは800円)保障されていますから、これでは取らない方が損というものでしょう。このように、スウェーデンでは、効果がないと思われるその原因を探り、すぐさま法律を改正します。もちろんパパクオータ制(パ

パ割当制)の始まりは一九九三年のノルウェーですが、スウェーデンはこれをパパ・ママ・クオータ制度としてとりいれ、成功しています。

その他に、勤務時間短縮制度や臨時の両親休暇として、①子供の出生に伴う父親の休暇や、②子供の看護(子供が12歳まで、子供一人当たり60日)があります。そして二〇〇六年には雇用の全過程において、「両親休暇の取得やそれに関連する理由」などで不利益な取り扱いを禁止することなどが決められました。

これは、妊娠・出産と育児は基本的に連続性をもつものであり、スウェーデンのように男女とも雇用が平等に保たれ、パートナーの妊娠・出産でも両方とも同じように休暇をとれるという法制度では、男女を法的に区別する理由はないと考えるからです。

三 スウェーデンのイクメンたち

スウェーデンでは、一九九五年の法改正以来、徐々に父親が休暇を取る率が増え始め、今では母親が育児休暇を取った後、今度は父親が休暇を取るなど、父親が育児に参加することが一般的になりつつあります。事例によると、夫婦ともに7ヵ月ずつ

表-2 4各国の育児休暇の比較

| | 育児休暇〔休業〕の概要 | 育児休暇中の手当 |
|--------|---|---|
| アメリカ | ・家族休暇12週間 ・子供の誕生から1年以内 | ・給付はなし |
| フランス | ・1-3年の休職、パートタイム労働に移行、職業教育をうける、のいずれか、または組み合わせ | ・原則は無給である ・ただし、第1子には6か月、第2子以降には3歳になるまで、休業・勤務時間短縮の度合いに応じて就業自由選択補足手当が支給される |
| スウェーデン | ・1歳まで、480日の両親休暇が取得できる ・そのうち60日ずつは配偶者に譲ることはできない | ・原則給与の80% (最後の90日については、日額60クロナを保障する) |
| 日本 | ・1歳まで（必要ならば1歳半まで）育児休業が認められる ・但し、両親ともに育児休業を取る場合は、1歳2か月になるまでの間に1年間 ・パート、派遣社員でも一定の条件付きで認められる | ・給与の50%が保障される |

出所：男女共同参画局、厚生労働省のホームページを参考にした

また、アメリカは休暇の長さが12週間ですし、フランスは組み合わせ法です。全体的にみると、「子供を

産み育てやすいかどうか」というアンケート（内閣府「少子化に関する国際意識調査」二〇〇五年調査）で、日本は47・7%、韓国は18・6%の人しか育てやすいと答えていないのは、問題と言えるでしょう。

また、イクメンたちが育児休業を取得して思ったことは、取ることにしては何でもなかった、仕事の内容も変わらなかった、などです。そして、育児休業を取ってよかったという声はほぼ全員に聞かれました。妻の大きさを知っただけでもよかったという声もあります。

ベネッセ次世代研究所の調査では、もし育児休暇が義務だったら、取得すると考える男性は46%もいるそうです。人間である以上、結婚して子供を作るのは考えられることです。その時、「その子供との時代は、その時しかない」ということです。二度はありません。それを妻だけに任せたい良いものではないでしょうか。

男性、女性を問わず、子供を持った人は、子供との時間を大切にしたいと欲しいと思います。

育児休暇を取るなど、法制度をきっちり利用していく姿も見られます。日本人からすると、女性の視点では7カ月は長くないですが、男性の視点では7カ月は長いと感じられるのではないのでしょうか。

四 日本との比較

表-2では、日本とスウェーデン、アメリカ、フランスとの比較をあげてあります。それを見ますと、やはり日本とスウェーデンとの違いはかなりあると言わざるをえません。それは「女性が平等である」という考え方が一般的か、それともまだスローガンにすぎない社会かという違いです。日本の法制度も、各国と比較するとよくできたものと言えるでしょう。しかし、実際には男性の取得率が低いことから、男女ともという視点がまだ少なすぎるようです。

五 今後の対応

それでは、今後男性の育児休業制度の利用者を増やしていくには、どうしたらよいのでしょうか。何といっても一番気になるのは「仕事」のことです。周りから変な目で見られないか、あるいは評価に響くのではないか、一人だけ業績が上がらずのけ者にされているなど、キャリアアロスに関する事項が挙げられます。また、給与が5割しか保障されないのも苦しいです。男女の給与の差が大きい日本では、必然的に女性が育児休業を取り、男性はそのままという傾向が強くなります。

企業としては、ワーク・ライフ・バランスを考えていく上で、この育児休業制度、そして介護休業制度を避けていくわけにはいきません。替わりの人を雇い入れる、業務を肩代わりするなど、長期的な視野で人事配置を考えていくことが重要かと思われれます。また、テレワークや在宅勤務など、働き方の多様化を実施していけば、育児休業を取得する男性は増えるかもしれません。

また、イクメンたちが育児休業を取得して思ったことは、取ることにしては何でもなかった、仕事の内容も変わらなかった、などです。そして、育児休業を取ってよかったという声はほぼ全員に聞かれました。妻の大きさを知っただけでもよかったという声もあります。

ベネッセ次世代研究所の調査では、もし育児休暇が義務だったら、取得すると考える男性は46%もいるそうです。人間である以上、結婚して子供を作るのは考えられることです。その時、「その子供との時代は、その時しかない」ということです。二度はありません。それを妻だけに任せたい良いものではないでしょうか。

育児休暇を取るなど、法制度をきっちり利用していく姿も見られます。日本人からすると、女性の視点では7カ月は長くないですが、男性の視点では7カ月は長いと感じられるのではないのでしょうか。

五 今後の対応

それでは、今後男性の育児休業制度の利用者を増やしていくには、どうしたらよいのでしょうか。何といっても一番気になるのは「仕事」のことです。周りから変な目で見られないか、あるいは評価に響くのではないか、一人だけ業績が上がらずのけ者にされているなど、キャリアアロスに関する事項が挙げられます。また、給与が5割しか保障されないのも苦しいです。男女の給与の差が大きい日本では、必然的に女性が育児休業を取り、男性はそのままという傾向が強くなります。

また、イクメンたちが育児休業を取得して思ったことは、取ることにしては何でもなかった、仕事の内容も変わらなかった、などです。そして、育児休業を取ってよかったという声はほぼ全員に聞かれました。妻の大きさを知っただけでもよかったという声もあります。

ベネッセ次世代研究所の調査では、もし育児休暇が義務だったら、取得すると考える男性は46%もいるそうです。人間である以上、結婚して子供を作るのは考えられることです。その時、「その子供との時代は、その時しかない」ということです。二度はありません。それを妻だけに任せたい良いものではないでしょうか。

男性、女性を問わず、子供を持った人は、子供との時間を大切にしたいと欲しいと思います。

また、イクメンたちが育児休業を取得して思ったことは、取ることにしては何でもなかった、仕事の内容も変わらなかった、などです。そして、育児休業を取ってよかったという声はほぼ全員に聞かれました。妻の大きさを知っただけでもよかったという声もあります。

INFORMATION

女性総合相談

- 相談日時：金曜日（年40回）午後1時30分～4時30分
 - 場所：市民相談室（市役所第二庁舎1階）
 - 相談方法：面談（電話相談可）要予約
 - TEL：（042）387-9853 企画政策課男女共同参画室まで
 - 費用：無料
- ※プライバシーは守られます

BOOK REVIEW




「イクメンで行こう！」
二〇一〇年刊
渥美由喜 著
日本経済新聞出版社

著者自身やその他のイクメンたちの経験に基づき、イクメンの考え方や実践的なノウハウを物語形式で伝えています。



「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」
二〇〇六年刊
山田正人 著
日本経済新聞社

第3子誕生を機に1年間育休を取った経産相キャリア官僚の山田氏が子育ての楽しさ、大変さを率直に綴った異例の育児体験記です。

かたらい33号 

2011年（平成23年）3月発行

企画・編集：かたらい編集委員会

発行：小金井市企画財政部企画政策課
男女共同参画室
TEL：042-387-9853
FAX：042-387-1224

編集委員：石川裕子 佐藤百合子
男女共同参画室

表紙：杉浦才樹

デザイン：水谷 香

監修：高橋道子（東京学芸大学）

表紙：CoCoバス新小金井駅前バス停

編集後記

日本は、男女共同参画が他の先進諸国に比べて半世紀遅れていると、国会中継なんかを見るといつも思っていました。だって、議員、オヤジとおじいさんばかり。それに、日本男児、つかえない男多しと。でも、いたんですねー、育児休暇をとってさりげなく主夫するカッコいい男性たちが！彼らが多数派になってほしい。(五)

今回は「イクメン」を取り上げました。少しずつ男性が育児休業を取るようになってくれればよいと思います。世界中、どこでも男性は一緒かとは思いますが、スウェーデンのように、一般的に男性も取ってくればよいと思います。(佐)

国の第3次男女共同参画基本計画の新たな施策の分野として「男性、子どもにとっての男女共同参画」が新設されました。その中で、男性の育児休暇取得率の成果目標が2020年までに13%となっています。小金井市でも今後取得率が上がるよう、この「かたらい」がその一助となればよいと思います。(阿)

男性による育児参加の状況は、以前と比較すれば改善されてきているように感じますが、今後は男性の育児参加がより進み、また地域社会との連携も更に進んだ社会になっていくと良いと思います。(古)

※おわびと訂正

前号（かたらい第32号）P5「夫婦別姓に反対」の記事中に誤りがありました。

（誤）平成22年第3回↓（正）平成22年第2回
おわびして訂正します。